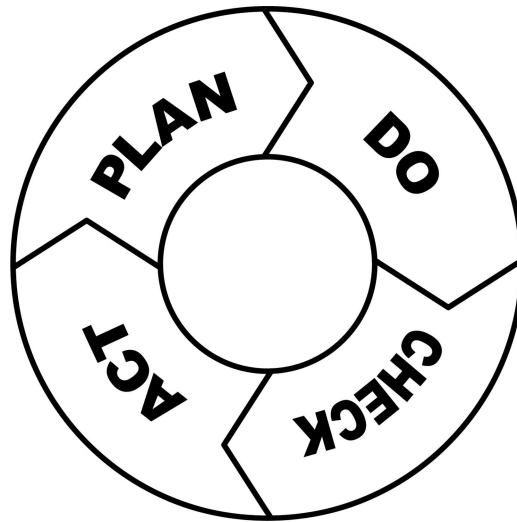


令和5年度前期

# 授業に関する自己点検評価シート



令和6(2024)年10月

函館大谷短期大学 F D 委員会




## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	保育実習指導Ⅱ	
講義区分・開講期	講義 ・ <b>演習</b>	<b>前期</b> ・ 後期 ・ 通年
担当者名	藤村 敦	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法 ↓	<p>保育実習Ⅱで学ぶ内容が明確に分かり，それに関する基礎的知識を得ることを目標の中心に据え講義を行った。昨年度同様，毎回の講義において，学んだ知識を活用することを求める演習を計画した。保育実習Ⅱ終了後には，事前に提示した観点をもとに実習を振り返る活動を行い，就職に向けての自らの課題を明確にできるようにした。</p>	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	<p>保育実習Ⅱで学ぶ内容について明確になるよう，ガイダンスにて，実習Ⅱでの学びの具体的なイメージについて，例示をしながら説明した。また，各講義においては，得た知識を活用する演習を設け，実習の内容に関して具体的なイメージをもてるようにするとともに，毎回の講義内容がガイダンスで提示した具体的なイメージのどの部分にあたるのかについて分かるよう説明を加えた。</p>	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	<p>アンケートの結果，総合的な満足度は4.86/5.00であり，授業内容については平均4.87/5.00，授業の進め方については平均4.87/5.00という数値であった。昨年度に比べ，各項目に0.1ポイント以上の上昇が見られ，ガイダンスでの説明内容及び各講義に設けられた演習の内容については，ある程度適切であったものと考えている。</p> <p>予習・復習の週平均時間については，これまでと同様の傾向を示しているものの，意欲は高い傾向にある。本講義は実習に関する事務連絡も多分に含んでいるため，予習・復習の量で一概に判断することはできなく，ある程度妥当であると考えている。</p>	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>今後も，得た知識を活用できる演習を効果的に用い，学生が必要感をもって学習を進めていく事ができるよう適切な演習課題づくりを行っていきたい。</p>	

## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	地域専門ゼミナールA	
講義区分・開講期	演習	前期
担当者名	伊藤 好一	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法  ↓	<p>本講義では、経営・ビジネスの分野について実践的な学びを提供するために必要な知識および実践の機会を提供する。具体的には、PDCAサイクルやチームマネジメントに関する説明および活用方法の確認、社会人基礎力習得のための講義や実習を行う。グループワークを中心とした演習（実習）形式で行うが、適宜、講義形式によるレクチャーも合わせて行う。</p>	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践  ↓	<p>初めに、PDCAサイクルについての説明やチームマネジメントに関する講義を実施した。グループワークも行うことになるため、しっかりと学生同士のチームで活動するときの心構えや役割分担の重要性などについてレクチャーした。また、社会人基礎力についても（1年次に説明しているが）改めて説明を行い、何を学び、それがどのように役立つかの理解をより深めることができるように努めた。その後、グループワークとして学外イベントでの出店の運営や多世代交流イベントに参加する中で経営・ビジネスの知識と技能が習得できるように授業を進めた。教員だけではなく、参加したイベント関係者などにも学生の活動に対するコメントをいただき、多角的な理解につながるように行った。</p>	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート  ↓	<p>多くの項目で4以上と概ね良好な評価を得たと思われる。「予習・復習の週平均時間」のみ2.25と課題を残す結果となった。また、「学習成果の到達目標に対する新しい知識や技能の習得」と「機材や機器の使用などの工夫」が最も高く4.85となった。「学習成果…」については、学生それぞれの得意分野や現状に合わせて、一人一人に合った課題の提供と評価を心掛けたことが高評価につながったと考えられる。「教材や…」については、PCやアプリなどを使い、各学生から寄せられる質問や課題提出に細やかに対応できたことが評価につながったと考えられる。「総合的な満足度」は4.68だが、今後より一層高い評価を得られるように努めたい。</p>	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>「予習・復習の週平均時間」について、演習中心となる授業であるためなかなか予習・復習のための課題提供が難しいことは否めないが、それでも可能な限り、提供できるように努めたい。また、講義形式時における予習・復習の課題提供は学生自身も慣れていると思われるので、演習と講義のバランスを見直しつつ、柔軟に機会を設けて課題提供に努めたい。</p>	

## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	社会心理学	
講義区分・開講期	講義	前期
担当者名	今在景子	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法  	<p>本講義では、社会心理学の基礎知識を身につけると共に講義で学んだ知識が自分たちの生活とかけ離れたものではないこと、日々の生活の中で活用が可能であることを理解してもらうことを目標としていた。</p> <p>社会心理学で取り扱われている主要なトピックについて先行研究を交えながら解説する、また時事ニュースや身近で起きた出来事を社会心理学的知見で読み解くことで理解を深めることを試みた。</p>	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践  	<p>講義は概ね、前回の復習、その日の講義内容、講義内容を用いた体験学習という3構成で実施した。</p> <p>毎回の講義終了時に復習課題と予習課題を配付し、次の講義までに取り組むよう指導していた。講義はこの復習課題を全体で確認と予習課題に言及してその日の講義内容へつなげることから始めた。</p> <p>その日の講義内容は、社会心理学の主要トピックを1つ取り上げ、先行研究の解説と一般生活との関連性を講義形式で実施した。</p> <p>体験学習は、講義内容に関連した心理現象の体験やグループワークを実施して体験としての学びを実践した。</p>	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート  	<p>昨年から講義担当者が変わった事から、講義の内容や進行についてガイダンスで丁寧に説明した。この甲斐があつてか、講義の欠席者もごく少数で、講義の進行も問題なくシラバスの予定通り実施できた。</p> <p>講義では「解説を聞きノートを取る」という作業だけにならないよう、解説中に学生へ意見を求めて理解度を確認したりしながら講義の内容を調整した。</p> <p>授業評価アンケートでは概ね高い評価だった。日常生活との関連や理解度を配慮していると評価もあり、単なる知識の詰め込みだけではないことを目標としていたこちらの意図をよく伝えることができたと考えている。</p> <p>復習課題を課してはいたが、十分な自学時間までには至らなかったことは反省点である。</p>	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>講義内容に意欲的な学生が多かったため、スムーズな講義の進行を促進できたと感じている。</p> <p>学生は座学で学んでいることは普段の生活とかけ離れたものとする傾向が強く「講義で学んだことを生活で生かす」という視点をもっと育てていきたいと考えている。自学時間の促進については、課題を増やすというよりも学習意欲を刺激することで自主的な学習を促したい。</p>	

## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	社会福祉	
講義区分・開講期	(講義) ・ 演習	(前期) ・ 後期 ・ 通年
担当者名	渡谷能孝	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法  ↓	<p>講義を通じ、社会福祉における現代社会が抱える福祉課題について考えることで、保育者としての資質向上を図ることをねらいとした。</p> <p>教科書、スライドをもちいた講義形式で授業を行い、社会福祉の歴史的背景から社会保障制度、保育に係る福祉課題などについて考えていく</p>	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践  ↓	<p>社会福祉における現代社会の福祉課題はもちろんのこと、歴史的な背景や時代の流れについて、保育者の視点を考えて展開していく。</p> <p>社会福祉の中において、特に社会保障に関しては今後の自身の生活にも直結することを考え、年金保険、医療保険、生活保護と細分化して講義を展開することで、より詳しく現状と今後の課題にふれる内容とした。</p> <p>学生が社会福祉を理解するだけにとどまることなく、実際の福祉課題を明確にとらえられる内容としたことは、今後の社会福祉のあり方を考えるきっかけになったと思われる。</p>	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート  ↓	<p>授業内容、授業の進め方、さらに総合的な評価については高い評価となっていることから、現状を維持できるように自己研鑽を積み、講義を進めていく。</p> <p>予習、復習への取り組みについて、予習に関しては具体的な提示したこともあり以前と比較する若干高くなったが、総合的にみても低い結果となっていることから、学生が積極的に取り組める仕組み作り着手する必要性を、改めて感じた。</p>	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>総合的な評価を下げることなく授業を展開していくことはもちろん、学生が自主的に取り組める仕組みづくりを構築していく。</p>	

## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	教育実習事前事後指導	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	乳井 英雄	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法  ↓	<p>「教育実習の目的や内容、実習に向けての心構えや準備等を理解することと、実習日誌や指導案の準備とその必要性、作成方法を理解すること」を目標として、演習および講義形式で授業を実施することとしている</p>	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践  ↓	<p>授業到達目標を基にしたシラバスの授業計画に明記している1回目から15回目までの講義内容を実施し、同じく評価方法に明記したレポートによって単位の認定を行うこととしていた。</p> <p>結果として授業計画通りの実施が遂行でき、単位認定については、授業内のレポートにて受講者全員の単位仮認定が完了しており、到達目標を達成することができた。</p> <p>なお、教育実習の単位認定と連動するため、単位認定の確定は教育実習終了後になる。</p>	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート  ↓	<p>アンケート結果では、設問領域「学生の受講態度」が平均値3.90、「授業内容について」が平均値4.88、「授業の進め方について」が平均値4.88、そして「総合評価」においては4.86という学生評価であった。</p> <p>設問領域の平均値はともかくとして、設問項目においては「学生自身の予習・復習の時間」が非常に少ないという学生本人の自己評価が多数存在している。</p> <p>また、前述以外の「授業内容・授業の進め方」における各設問項目の中では「教材や機器の使用の工夫」が4.86で最も低くなっている。</p>	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>授業内容や進め方に関しては、前述した4.86が最も低い結果であるが、それ以外の項目も4.89前後を維持できているので特に大きな問題とは考えていない。「指導計画論」などで指導案の書き方は習得していることを前提にして授業を展開しているが、理解度に差があることを踏まえて内容をより分かりやすく展開させる必要がある。</p> <p>また、DVD等による視覚学習もさらに増やしてみる。</p>	

## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	保育実習指導Ⅲ（施設）	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	阿部 千春	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法  ⇩	<p>保育実習Ⅰにおける社会福祉施設での現場実習を踏まえ、より実践的で総合的な視点からの施設機能や役割・対象児(者)への理解を深めるとともに、社会的拡がりのなかでの社会福祉施設の存在についての理解を深められるようにする。児童福祉施設等の機能と保育士の職務について具体的に理解できることを目的とする。</p> <p>講義資料を用いて、講義形式で行う。演習としてグループワークやグループディスカッションを取り入れる。提出課題は単位認定の必須条件となる。</p>	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践  ⇩	<p>保育実習指導Ⅰでの内容をより深く掘り下げた形で、社会福祉施設での支援等に関して学べるようにした。4名という少人数であることの利点も生かし、対話型授業を行う時間を多く取り入れ、学生からの質問も多く、積極的に取り組んでいた。</p> <p>社会福祉の現場で使える心理学やカウンセリングの理論・技法（自己理論や行動療法、家族療法、親業など）についても事例を取り上げながら行った。苦戦、思案しつつ取り組みながらも、保育や施設の現場での実践に生かせるようにと熱心に課題に向かっていた。</p>	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート  ⇩	<p>事例の対象児(者)についての理解のしかたや具体的な対応方法について検討する時間を多く設けて、事例を積み重ねたことは、学生にとっても将来的に役に立つ学びであると捉えることができたようである（「新しい知識や技能を習得できた」「興味関心」評価 5.00）。また、積極的に自分の考えを述べたり、他の学生の考えから学ぼうとする姿勢も見られ、学びに対する意識をさらに高めた学生もいた。（「授業への意欲」 5.00）。今年度は保育実習Ⅲに向けての課題を明確化したことにより、「到達目標の達成」が例年よりも高い数値であった（4.50）。この科目については選択必修科目であり、自ら学習を深める時間を求めていけるように支援したい（「予習・復習の週平均時間」 2.25）。</p>	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>○事例を多く取り入れた授業を行うことで、具体的な対応策などについて思考を練る訓練となるが、学生に合わせた事例の選択、提示の仕方を工夫していきたい。</p> <p>○選択必修科目であり、自主学習に努められるよう言葉掛けを工夫したい。</p>	

## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	健康科学論	
講義区分・開講期	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期</span> ・ 後期 ・ 通年
担当者名	池田 隼	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法  ↓	健康の維持増進を図るために、健康の概念や健康に影響を与える生活習慣について理解を深め、生活習慣を見直し、生涯にわたり健康に過ごすための力を身に付けるための知識を付け、さらにその知識を活用するための実践的な方法を理解することを目的とする。（シラバスより抜粋）	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践  ↓	講義形式で講義を行い、單元ごとに資料を配布し学びを深める。また、毎時間グループディスカッション及び発表を実施する他、レポートを提出し、理解度を確認しながら進めていく。その他、状況に応じて学内にあるPCを使用する場合もある。（シラバスより抜粋）	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート  ↓	本講義では、健康の維持増進を図るために、健康の概念や健康に影響を与える生活習慣、環境要因などについて学び、自身の生活習慣を見直し、生涯にわたり健康に過ごすための知識を学ぶことを念頭に授業を展開した。講義であるため、授業の半分以上はスライドを用いた内容になっていたが、可能な限り学生同士でのディスカッションやグループワークを取り入れるように努めた。  授業評価アンケートの結果からは、【総合的な評価】に対し、【I. 受講態度】が低い数値であった。その中でも特に「予習・復習の週平均時間」が低い数値を示していた。	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し	アンケート結果が示す通り、「予習・復習の週平均時間」の改善は必要不可欠である。次年度に向けて、具体的には定期的なレポート課題だけではなく、予習・復習に関する教材資料を作成することも検討する必要がある。また、本学の学生の特性も踏まえた上で、次年度の授業に向けて改善していきたい。	






## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	こどもの造形と遊び	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	太田望	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法  ↓	<p>目標は、教材研究をこどもの発達や個性的な表現の違いの視点で理解することができる。教材研究を通して学修したことを元に模擬保育を計画、実践することができる。</p> <p>授業の方法としては、授業の前半は、多様な材料や用具を中心とした教材研究を通して、こどもにとっての教材としての意味や価値について考える。後半はグループワークによる教材研究と模擬保育に取り組む。</p>	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践  ↓	<p>教材研究としては、さまざまな視点の造形表現活動の教材を提案し、学生一人ひとりが取り組むことができるようにおこなった。具体的には、教材に興味をもつことができるような提示をしたり、声掛けといった支援をしたりというようにである。</p> <p>また、授業の内容が分かりやすいように、プロジェクターでプレゼンテーションを提示した。加えて同様の内容をプリントして配布した。</p> <p>教材研究は、こどもが扱うものと似たものを用いて、実践に活かせるようにした。</p> <p>授業の後半は、グループワークで行うことによって、アクティブラーニングを促せるようにした。</p>	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート  ↓	<p>受講態度は3.59、授業内容については、4.75、授業の進め方については、4.68、総合的な評価は4.73であった。</p> <p>特に、受講態度の分野が結果が低い。項目としては出席状況と予習・復習の週平均時間が低くなっている。</p>	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>そのため、授業時に日頃から造形表現活動について考えられるように声掛けをしていき、改善したいと考えている。</p>	

## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	幼児音楽	
講義区分・開講期	講義 ・ <b>演習</b>	<b>前期</b> ・ 後期 ・ 通年
担当者名	土谷 育代	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法  ↓	<p>保育者として必要な基礎的なピアノ演奏ができること、基礎的な音楽理論の理解と読譜ができること、子どもの歌を表現豊かに演奏できることを目標とする。</p> <p>授業方法は教科書とプリントを用い、音楽理論を講義形式、ピアノ演奏をML教室にて演習形式で実践する。</p>	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践  ↓	<p>1回90分の授業を大きく2つに分け、前半では音楽理論と読譜を理解するために、音名、音符と休符、リズムと拍子、記号、音楽用語など基礎的な内容の説明を中心に授業を実践した。後半ではピアノ演奏に関する授業を、ML教室で担当教員の演奏と説明を聞き、各自電子ピアノを弾き確認する方法で実践した。前半の音楽理論を活用しながら、始めに基礎的な弾き方を学び、次に子どもの歌を演奏することに慣れ、そして表現豊かな演奏ができるように授業を展開した。</p> <p>音楽理論は1回、ピアノ演奏は2回テストを行い、理解の確認を行った。</p>	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート  ↓	<p>I. 「授業態度」では、「授業への意欲」が他の項目より高かったが、「予習・復習の時間」が低く、授業以外でも学習し、授業内容を定着できるように学生に働きかけることが必要だと考える。</p> <p>III. 「授業の進め方」では「話し方や説明の仕方」が他の項目より低かった。授業の内容が、音楽理論やピアノ演奏を初心者から音楽経験者が一緒に学ぶ方法なので、初心者にも経験者にも理解しやすいように、説明の仕方を改善する必要があると考える。</p>	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>予習・復習をするように、授業内で具体的な学習内容を提示する。授業の進め方では、資料の活用を工夫するなどし、わかりやすく説明することを心掛けた。</p>	

## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	保育内容研究Ⅱ（言葉）	
講義区分・開講期	講義 ・ <b>演習</b>	<b>前期</b> ・ 後期 ・ 通年
担当者名	村田あきの	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法  	1. 人格形成の大切さと領域の考え方を理解する 2. 子どもたちの言葉を豊かに育むための関わり方を学ぶ 3. 人間としての成長や文化の発展について自ら学び考えることが出来る  上記の1から3の項目について講義を中心とした説明を行った後、理解を深めるためにグループワーク等の活動を行う。	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践  	教科書をベースに講義を行ったが、実習期間は学生の出席状況が不安定となったため、かるた作りといった言葉の領域をより理解し実践するための活動を取り入れた。 また、教科書だけでなく、保育現場で実際に想定される状況をもとに各自で対応方法を考えるワークも実践した。	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート  	授業への出席状況とモチベーションがやや低かったことから、当該科目の重要性や有用性への理解が不足していたと考えられる。また、到達目標の達成についても他の項目より低い評価となったため、授業期間を通じて目標の確認を続ける必要があるとともに、達成感を得られる授業内容が求められていると考える。	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し	当該科目の受け持ちが初年度ということもあり、学生の学力やモチベーションを授業開始後に確認することとなった。次年度は本学の学生に適した教材を採用するとともに、より実践的な活動も取り入れ、活動的かつ実践的な講義としたい。	

## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	韓国語会話A	
講義区分・開講期	講義・演習	前期・後期・通年
担当者名	金 美敬	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法  <div style="text-align: center;">⇩</div>	実際に学んだ韓国語を必要な時、特に韓国旅行などで役に立つことを目標とする。  授業の方法は、講義形式で、教科書やworkbookを利用し、学習を行う。	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践  <div style="text-align: center;">⇩</div>	韓国語での会話練習を通して、韓国語を身につける。workbookを利用し、授業の内容を理解させる。また、授業内の小テストを行い、理解度を確認する。	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート  <div style="text-align: center;">⇩</div>	予習や復習など、学習環境をもっと作ることが必要だと思う。またグループを組んで、積極的に参加させ、学習させる。外国語での会話の楽しさを実感させる。	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し	    	

## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	中国語会話	
講義区分・開講期	講義 ・ ●演習	●前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	陳儀萍	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法  ↓	<p>中国語の漢字の音を示すピンイン、特有の四声、基礎的な文法、基本フレーズなどを学ぶことで、簡単な中国語会話を身に着けることが目標です。</p> <p>授業は教科書を用いて、講義と演習形式で行います。</p>	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践  ↓	<p>授業を受ける前に予習する事と受けた後で復習する事ことです。予習と復習はそれぞれに宿題を出します。そうすることにより、より授業内容の理解が高まり、スムーズな授業になります。</p> <p>文化学習に中国茶と中華料理を授業にいれ、中国文化とのふれあいができます。</p>	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート  ↓	<p>学生に十分な予習、復習と宿題を要求し、それは方針です。</p>	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>基本的にあまり変わらないと思います。次の年度に学生の様子を見て、それに合わせて授業に行いします。</p> <p>今年度、社会人学生がいたので、授業はよりスムーズに進むことができました。</p>	

## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	プレゼンテーション演習Ⅱ	
講義区分・開講期	講義 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 演習	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	三浦久典	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法  ↓	プレゼンテーションソフトや動画編集、音声編集、画像作成などプレゼンテーションに関わるアプリケーションが使えるようになる。  <b>【授業の方法】</b> プレゼンテーションソフトや動画編集、画像作成アプリを用いて課題作成を行う。	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践  ↓	生徒の興味や理解度を確認しながら、優先すべき課題を勘案し、到達目標へ向けた授業を実践。 講師は見回りながら、生徒のサポートを行う。  理解の早い生徒、興味のある生徒は応用技術や参考資料等を紹介し実践できる環境にする。	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート  ↓	一人一人どんなことを学びたいのか、どんなイメージを持っているのか確認しながら、一人一人向き合うことを意識した。総合的な満足度について想定より高い評価はいただいたが以下項目の改善が必要。  <b>【予習・復習の平均時間】</b> 予習復習時間が少なかったため改善が必要。 今年は個人個人がパソコンを持っており、予習復習の環境は整っているため、予習復習を習慣づける作る仕組みが必要。	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し	この授業で行っている内容は、就職後の「企画書の作成」をはじめ、自社の事をしっかりと考え仕事に向き合うといった事にも繋がってくるため、自宅でも自然と考え、自然とパソコンを触る習慣となる仕組みづくりが必要。 引き続き「考え、作るのが楽しい」と思う授業内容を大切にした課題を考える。	

## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	カラーコーディネーター I	
講義区分・開講期	講義	前期
担当者名	吉田麻子	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法  ↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色彩検定3級検定合格のために必要な知識を体系的に取得できること</li> <li>・ 色彩学の豊かさや人生における活用方法などを知り、実生活で実践できること</li> </ul>	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践  ↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「色彩検定3級公式テキスト」に基づき、検定合格のために必要な知識を体系的に取得できるよう章ごとの要点を踏まえ、ワークなどを盛り込んだ授業を実施した。</li> <li>・ 毎回の小テストに実施によって復習の重要性を習慣づけるようにした。</li> <li>・ 初回と最終回は色彩検定から離れた人生や生活全般と色彩とのかかわりについての講義を設定した。</li> </ul>	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート  ↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の自宅学習の時間の少なさが明らかになった。</li> </ul>	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回の小テストの実施及びその点数が評価につながることの周知により、自宅学習を促進する</li> <li>・ 自宅で作成する課題を出すようにする。</li> </ul>	

## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート




担当科目名	人間学 1	
講義区分・開講期	(講義) ・ 演習	(前期) ・ 後期 ・ 通年
担当者名	福島 重	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法  ↓	<p>本講座は、「自分自身を見つめることができる洞察力・考察力を身に着けること」を目標に据え、受講生の理解度を見ながら、アクティブラーニングの形をとって授業を進めた。</p>	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践  ↓	<p>シンプルかつ一貫した目標である「洞察力・考察力の向上」に向けて、授業では、仏教における根本的な苦しみである「生老病死」を念頭に置きつつ、学生が生活するうえで生じてくる様々な問題について取り組み、学習した。毎時間、前半は講義、後半は、いわゆる「シンク・ペア・シェア」方式を用い、教員が課したテーマについて学生たちが考察・発表し、教員がそれをまとめる形を採った。</p>	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート  ↓	<p>本講座は、講義スタイルとして、学生に対し明確な形で「予習・復習」は求めている。アンケートの「予習・復習」の項目だけが低評価なのは、そこに理由がある。</p> <p>上記「予習・復習」以外のほとんどの項目では、4以上のポイントを得た。その点では、授業がねらい通りに進められ、学生も想定通りの理解をしたと自己評価している。また、コメント欄に「授業が楽しかった」という声がいくつか挙がっていた。内容が深く難しいため、明るい雰囲気を保てるように努めていたが、それが成果として出たものだと思う。</p>	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>本講座が目指すところは、授業で培った「洞察力・考察力」を、授業外でも活用してもらうことにある。そのため授業で教授するのは、「知識」ではなく「物事の考え方」が核になる。</p> <p>今年度は、比較的順調に進めることができた。次年度以降も、学生との対話を通して、より効果的で楽しめる授業を目指したいと思う。</p>	



## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	子ども家庭支援論	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	齋藤 征人	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法  ↓	当該科目の到達目標に向けて、授業計画にもとづき、授業を展開する。とりわけ授業内容に関心を持ち、主体的に考えることができるような話題の選択や、問いかけなどを行う。	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践  ↓	授業内容については、話題や焦点を絞るなど精選し、板書をもとに授業を行った。メール等を通じて、質問や感想などを受け付け、学生の理解度を図りながら授業を展開した。	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート  ↓	いずれの項目もおおむね達成できていたが、予習・復習についてはあまり取り組めていないことがわかった、	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し	予習・復習の必要な項目を具体的に指示するなど、少しでも主体的に取り組んでもらえるよう、心がけていく。	

## 令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	地域福祉論	
講義区分・開講期	(講義) ・ 演習	(前期) ・ 後期 ・ 通年
担当者名	大島 文輝	
<b>PLAN</b> 目標の設定 授業の方法  	1、地域福祉の基本的な考え方とシステムを理解する。 2、フォーマル、インフォーマルの役割や連携を理解する。 3、地域福祉の推進方法と現状の課題を理解する。  上記目標を基にプリントやパワーポイントを用いて講義を実施。またグループワークを通して課題を考える時間を持つ。	
<b>DO</b> 目標に基づく 教育方法の実践  	現代社会における地域課題を整理し、その解決における実践者、団体の取り組みや道南や道内での活動を紹介。その根拠となる法や制度を照らし、理解ができるように取り組んだ。また協働する大切さを理解していただけるよう、コミュニケーションゲームを実施した。	
<b>CHECK</b> 自己点検・評価 授業評価アンケート  	実践内容等の紹介では動画を活用し、理解ができるようにしたが、個々の理解度を見ての展開が不足していた面があった。またパワーポイントの資料をプリントとして配布していたが、事例と法や身近な事柄を上手く繋げ理解を促す事に欠けていた。	
<b>ACTION</b> 次年度に向けての 改善策・見直し		